様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３５４０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８１２０１

研究課題名（和文）戦後初期における入門期国語教科書の改革に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on the Primer Textbooks Revision in Japanese Language of the Early Postwar Years

研究代表者
吉田　裕久（YOSHIDA, Hirohisa）

安田女子大学・教育学部・教授

研究者番号：８０１０８３７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：『まことさんはなこさん』・『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』は、戦後初期入門期（小学1年生用）国語教科書として編纂された。CIE係官のヤイディ、ストリックランドは、その表現・内容について助言した。短い、続き読み物として構成された。短い語句、その語句の繰り返しにすることを示唆した。文部省はこれらの指示に基づいて入門期国語教科書を編集した。こうしてできたのが、『まことさんはなこさん』・『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』である。これら3冊の入門期国語教科書は、これに続く検定入門期国語教科書に大きな影響を与えていった。

研究成果の概要（英文）：“Makoto-san and Hanako-san”,”A Day in the Country”,“Isams’ Home”are written as a book of Japanese Language to be used at first for children entering the elementary school. Mrs. Jeidy and Strikland(CIE) made suggestion for the content and expression. They were arranged in the stories which were short but continuous as to theme and characters. More repetition of words ware used and fewer new words were introduced. The Ministry of Education had revised the Pre-primer, Primer,and First Reader books according to suggestion. These 3 textbooks have changed much improvement for new Primer Reading Textbooks.

研究分野：国語教育学

キーワード：国語教育史　戦後国語教科書史　入門期国語教科書　まことさんはなこさん　いなかのいちにち　いさむさんのうち　GHQ/CIE

１．研究開始当初の背景

戦後初期（被占領期）、GHQ/CIE は、日本の教育改革はもちろん、教科書改革にも積極的な取り組みを見せた。小学校一年生用の入門期国語教科書についても同様であった。わが国のそれまでの伝統的な編纂方法である教材の難易度に着目した「教材本位」（文字→語→文）の編纂方法に再考を促し、新たに学習者の特性・発達に留意した「学習者本位」（興味・関心、活動的学習）の編纂方法を提案・示唆した。

本研究は、この戦後初期における入門期国語教科書のあり方をめぐる GHQ/CIE と文部省とのやり取りの実態について、これまで検討されることがほとんどなかった米国立公文書館（NARA）所蔵の資料を用いて明らかにしようとするものである。

先行研究（筆者も含めて、しかし数少ない）では、文部省側の当事者（石森延男）による後年の回想によって、この入門期国語教科書の編纂も GHQ/CIE による文部省への一方的な押しつけだと解釈されてきた。が、当時の実際の記録（米国立公文書館所蔵の Conference Report、Weekly Report 等）によれば、学習者の「学び」の実態（興味・関心、行動的特性等）に基づく斬新で本質的な教科書観に、文部省側も次第に理解・納得・共鳴して受け容れていったのではないかというのが本研究の見通し（仮説、先行研究の見直し）である。

この時の会議録は、当時はもちろん秘密（Rejected）に属してきた。しかし今日、GHQ/CIE が占領終了後米国に持ち帰り、米国立公文書館に所蔵している資料 GHQ/CIE 文書を精査することによって、その実態について明らかにすることができるものと思われる。

２．研究の目的

被占領下における文部省編纂の入門期国語教科書のあり方をめぐる GHQ/CIE と文部省とのやりとりは、その後の民間の検定国語教科書の編纂に大きな影響を及ぼした。

この間の事情については、1 の背景でも触れたように日本側の当事者であった石森の回想によってアメリカ側の係官と熾烈なやりとりがあったというその結果だけが報告されてきた。しかし、これら入門期国語教科書のその後の展開・影響を見ると、とても大事な歴史的な転換点でありながら実際にどのような具体的なやりとりがあったのか、その詳細については分からないままであった。

その GHQ/CIE と文部省とのやりとりの実態が、米国立公文書館や国立国会図書館等に収蔵されている文書（Conference Report, Weekly Report 等）の中に残されている。本研究は、これらの文書の調査を中心に、文部省側の対応等も含めて分析・ 考察することを通して、戦後初期における入門期国語教科書の目標・内容・方法、影響等について実証的に明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

（１）本研究で取り上げる『まことさんはなこさん』等の入門期国語教科書に先だって、昭和 22 年、新教育にふさわしい小学校国語教科書として、文部省編纂の国定教科書『こくご』が編纂・発行された。「おはなをかざる みんないいこ」という文章で始まるこの国語教科書は、斬新な教科書として日本では高く評価され、歓迎された。が、GHQ/CiE の係官からは児童の言語能力の発達に合っていないなどと厳しく指摘され、改訂を余儀なくされた 。この結果できあがったのが、昭和 24 年に編纂・発行された『まことさんはなこさん』である。この『まことさんはなこさん』（プレプリマ、第一入門教科書）の編纂をめぐる具体的なやりとりについて、GHQ/SCAP の CIE 文書（Conference Report および Weekly Report）を米国立公文書館の現地調査、国立国会図書館の補充調査によってその実際を撮影・複写等によって資料化する。

（２）『まことさんはなこさん』（プレプリマ、第一入門教科書）に続いて、プリマ・第二入門教科書として『いなかのいちにち』、さらにファーストリーダー・第一読本として『いさむさんのうち』が編纂・発行された。この具体的なやりとりについても、GHQ/SCAP の CIE 文書（Conference Report や Weekly Report）を米国立公文書館、国立国会図書館等で調査し、その実際を撮影・複写等によって資料化する。日本・文部省側の資料として、この時、GHQ/ CIE と応対した文部省の石森延男、篠原利逸等の関連発言・論文等を国立国会図書館、筑波大学図書館等で調査 、撮影・複写等によって資料化する。

（３）GHQ/CIE によって参考として示されたアメリカの入門期国語教科書について、筑波大学付属図書館のヘファナン文庫等で調査し、それらを研究資料として提示する。

（４）これらの調査を元に、戦後初期における入門期国語教科書の成立の経緯、とりわけアメリカ側の示唆、そして、その結果編纂された『まことさんはなこさん』『いなかのいちにち』『いさむさんのうち』について、その特色、役割・意義等を実証的に明らかにする。さらに、これら文部省で編纂された国定の入門期国語教科書と、その後に編纂・発行された検定の入門期国語教科書とを比較・検討することによって、その影響関係について考察する。

以上の調査によって得られた成果を総括して戦後初期における入門期国語教科書（『まことさんはなこさん』『いなかのいちにち』『いさむさんのうち』）の内容、特色、意義、影響等に関する研究として総括する。

４．研究成果

（１）『こくご一』（昭和 22 年）から『まことさんはなこさん』（昭和 24 年）へ

昭和 22 年、新教育にふさわしい小学校国語教科書として文部省編纂の『国語』（各学年 2 冊、全 12 冊）が発行された。その第 1 学年上巻用として編纂された『こくご一』は、「おはなをかざる　みんないいこ　きれいなことば　みんないいこ　なかよしこよし　みんないいこ」という表現で始まり、民主的・平和的で、新教育にふさわしい斬新な国語教科書として国内では高く評価された。しかし相次いで着任した GHQ/CIE の係官（ヘファナン、ヤイディ、ストリックランド）からは、「児童の発達段階が考慮されていない」、「児童の言語能力の実態に合っていない」など厳しく指摘され、この改訂を余儀なくされた。その結果できあがったのが『まことさんはなこさん』をはじめ『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』３冊の入門期国語教科書である。

（２）『まことさんはなこさん』

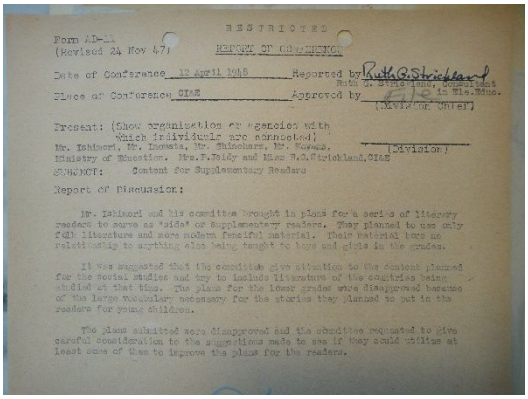
このうち、第一入門期教科書（プレプリマ）『まことさんはなこさん』に関する具体的やりとりについて、GHQ/CIE 文書（Weekly Reports および Conference Reports を米国立公文書館、国立国会図書館憲政資料室で調査し、その必要関連部分を撮影・複写した。またこの時の日本側当事者であった文部省の石森延男・篠原利逸・入門期の国語教育の著者等の関連発言・論文・著書等を国会図書館で調査した。

写真１　まことさんはなこさん

この『まことさんはなこさん』に対する CIE の検閲はことのほか厳しく行われたようである。まさに後年、石森延男が回想で述べているとおりである。

> 指導者として招かれて来朝したストリクランド（ママ）さんに、どうもむりなところがあるといわれてしまった。とくに小学校一年用のものについて、こんこんと注意された。いわれたけれども、わたしにはどうも合点がいかない。ストリクランドさんは、文字教育の場合、語形で教えなければならないという。したがって、いきなり新語が、各ページに六語も七語も出るような教科書は、学習上むりだという。それはわかるが、日本の子どもにはむりでないとわたしは言いはる（中略）。ストリクランドさんはそんなはずはない、そんな不合理な学習はないとこれも言いはる。（「占領下のころ」、「言語生活」164 号、昭 40、pp.53-55）

次の写真は、その時のストリックランドによる報告の一部である。


RESTRICTED

Form AD-11
(Revised 24 Nov 47)

REPORT OF CONFERENCE

Date of Conference 12 April 1948 Reported by Ruth G. Strickland
Rank or Grade Civilian Position Chief in Ele. Educ.

Place of Conference CIE Approved by
(Division Chief)

Present: (Show organization or agencies with which individuals are connected)
Mr. Ishikori, Mr. Inomata, Mr. Shinohara, Mr. Kowada, (Division)
Ministry of Education. Mrs. P. Jeidy and Miss R.G. Strickland, CIE

SUBJECT: Content for Supplementary Readers

Report of Discussion:

Mr. Ishikori and his committee brought in plans for a series of literary readers to serve as 'aids' or supplementary readers. They planned to use only folk literature and more modern fanciful material. Their material bore no relationship to anything else being taught to boys and girls in the grades.

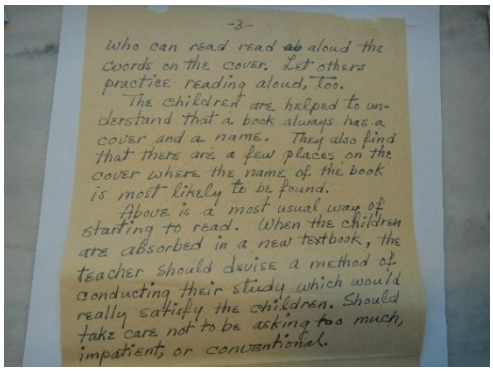
It was suggested that the committee give attention to the content planned for the social studies and try to include literature of the countries being studied at that time. The plans for the lower grades were disapproved because of the large vocabulary necessary for the stories they planned to put in the readers for young children.

The plans submitted were disapproved and the committee requested to give careful consideration to the suggestions made to see if they could utilize at least some of them to improve the plans for the readers.

写真２　R.G.Strickland の Conference Report（1948 年 4 月 12 日）

まさに侃々諤々、喧々囂々の議論が「辞職」をかけて展開したようである。

この『まことさんはなこさん』の扱い方を説明した解説書 Teaching manual にも、入門期国語教科書の教育のあり方についてヤイディによる詳細な検閲（指示・示唆・助言）の跡が残っている。


-3-

Who can read read ~~ab~~ aloud the words on the cover. Let others practice reading aloud, too.
The children are helped to understand that a book always has a cover and a name. They also find that there are a few places on the cover where the name of the book is most likely to be found.
Above is a most usual way of starting to read. When the children are absorbed in a new textbook, the teacher should devise a method of conducting their study which would really satisfy the children. Should take care not to be asking too much, impatient, or conventional.

写真３　Pauline Jeidy による修正の跡

なお、『まことさんはなこさん』成立のプロセスでは、「まことさんはるこさん」の名称も存在していたようである。

（３）㊙「昭和二十四年度　こくご一」（修正原案）

これらの資料から、『こくご一』から『まことさんはなこさん』へすんなりと移行したのではなく、これらの間に『こくご一』の改訂版（㊙「昭和二十四年度　こくご一」（修正原案）が存在することがわかった。この改訂版の発行は、日本側のささやかな抵抗と解することができる。ただ結果的には、この試みも実際には無に帰することになる。アメリカ側の対応は、こんな微修正ですむレベルのことではなかった。前述したように、アメリカ側は、一年生の入門期にたくさんの語彙提

出は無理だと指摘し、日本側は日本の子どもは大丈夫だと反発する、相互の主張が大きくすれ違い、文化摩擦・言語摩擦の状況が生じていた。そこで、アメリカの入門期教科書とも比較しながら語彙数を調査し、少数に絞ることが示唆されたようである。その結果としてできあがってくるのが、「こここ　とととと……」という無意味にも思える繰り返し表現であったようである。この点は、日本語の簡素化（Language Simplification）の動きとも関連していた。

（４）プリマ『いなかのいちにち』、第一読本『いさむさんのうち』

プレプリマ『まことさんはなこさん』に続くプリマ『いなかのいちにち』、第一読本『いさむさんのうち』について GHQ/CIE 文書を調査した。その結果、これら 2 冊の教科書は前教科書に比べて、CIE の検閲が比較的緩やかに行われていることが分かった。

Conference Reports および Weekly Reports などに、その修正指示の痕跡がほとんど見られないからである。その理由として、大きくは次の 2 点を指摘することができる。

①CIE 係官の入門期国語教科書の考え方を反映させて編集したこと

子どもの心理的発達に沿っていること、新しい言葉（語句・語彙）を多くしないこと、言葉をリズミカルに繰り返して用いること、子どもの生活物語として展開することなど、CIE 係官ヤイディ、ストリックランドの入門期国語教科書の考え方、指示をあらかじめ踏まえて編集している。

②アメリカの入門期国語教科書を参考にして進めたこと

“Today’s Work-play Books”, ”Happy Road to Reading“,”Child Experience Reading“,”Progress in Reading“,”Child Activity Readers, ”The Highway to Reading“,”Easy Growth in Reading“ など、アメリカの教科書を参考にしながら編集を進めたようである。（石森延男「敗戦直後の国語教育」、「現代教育科学」99 号、1966.2）にも同様の回想が記されている。同年齢の子どもの生活を一連の物語として展開する手法は、これらに拠ったものと考えられる。

（５）『まことさんはなこさん』と、『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』の対応の違い

第１分冊の『まことさんはなこさん』については、教科書本文はもちろん指導書に至るまで CIE 係官ヤイディ・ストリックランドによる厳しい添削・補正の跡が GHQ/SCAP 文書に残されている。しかし第２分冊『いなかのいちにち』では、教科書本文・指導書の英訳はあるが、ヤイディ等の細かな指示の跡は見られない。さらに第３分冊『いさむさんのうち』に至っては、教科書本文の英訳はあるが、指導書の英訳は見られない。

この検閲軟化の要因としては、①GHQ の日本占領が終結に向かってきたこと、及び②入門期国語教科書の編修に石森延男他の文部省担当者が習熟・精通してきたこと、③アメリカの当時の入門期国語教科書が CIE 係官へファナンによって輸入され、その具体的な参考のもとで編集が行われるようになったことなどが考えられる。このアメリカの入門期国語教科書は、現在、筑波大学附属図書館（旧東京教育大学、元東京文理科大学）のヘファナン文庫に保存されている。これらのアメリカ入門期国語教科書を見ると、上記 3 冊の教科書の編修に大きな影響を及ぼしたことが分かる。

（６）アメリカの国語教科書の影響

戦後初期のこの時期にアメリカの国語教科書の影響を受けことは、この入門期国語教科書３冊の編修だけに止まらず、次のような点で、昭和 20 年代後期の検定教科書期における入門期国語教科書に大きな影響を与えた。①1 年生教科書が、第１分冊－プレプリマ、第２分冊－プリマ、第３分冊－第１読本という３分冊編修スタイルを確立した。②二人の少年少女の生活物語、家庭生活、学校生活、地域生活という内容スタイルが定着した。③挿絵の描き方が類似している。

（７）『いさむさんのうち』

入門期国語教科書 3 冊の中でも特に資料が乏しいのが、第一読本『いさむさんのうち』である。本教科書は最後の編纂であり、検定教科書（昭和 24 年度使用開始）と使用時期が重なったこと、さらには「学習指導要領」の改訂（昭和 26 年度版）作業への従事とも関連があると思われる。とりわけ教師用解説書については不明な部分が残っている。もともとこの教科書の解説書は、前 2 冊とは異なり、日本文でも発行されなかったものと思われる。今日、その原稿も見いだされていない。ただ表紙と目次の 3 ページのみの英訳（CIE 文書、No.5630）が見いだされているところから判断すると、少なくとも翻訳の元となる原稿は存在していたものと思われる。全てが完結していたかどうかは分からない。

（８）『まことさんはなこさん』・『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』の編纂・発酵過程

こうして編纂された３冊の入門期国語教科書の原稿完了、印刷、発行のおよその日程は次のようであった。

①『まことさんはなこさん』

原稿完了 1946.9.27、1949.2.11 印刷許可、1949.5.18 発行

②『いなかのいちにち』

1948.9.1 原稿完了、1949.2.11 印刷許可、1949.5.15 発行

③『いさむさんのうち』

1949.1.27 原稿完了、印刷許可日不明、

1949.12.13 発行

（９）CIE 係官、ヘファナン、ヤイディ、ストリックランド

『まことさんはなこさん・いなかのいちにち・いさむさんのうち』、これら３冊の入門期国語教科書に直接的に関与したアメリカ側の係官は、ヘファナン、ヤイディ、ストリックランドの３人であり、いずれも女性の係官である。とりわけヤイディとストリックランドが、大きく携わっていたようである。この入門期国語教科書の編纂に関する重要会議が、1948.5.11～11.25、ほぼ定例（多くは金曜日）で開かれていた（CIE 文書、No.5629）。とりわけヤイディとストリックランドは、「面白くない、長い、子どもの実態に合っていない、1 年生の男女が健全な関係であるためには男女双方がリーダーであること」など、酷評を繰り返したようである。

（10）ヘファナン文庫・IFEL 文庫

入門期国語教科書の編集に直接関与したアメリカ側 CIE の係官ヘファナンは、帰国に際し、糾問期教科書を含め、関連著作を東京文理科大学に寄贈した。現在の筑波大学附属図書館に、ヘファナンがアメリカから取り寄せた文献が所蔵されている。この中に、入門期国語教科書の参考になったのではないかと思われる数冊の教科書も存在している。次の MABEL O’ODONNELL”OOEN The DOOR-The New Alice and Jerry Books READING FOUNDATIOH SERIES”1947）以下のものもその一つである。

写真４　冒頭”Allice and Jerry”

（11）入門期国語教科書改訂の理論的バックボーン

また、さらにこの理論的なバックボーになったのではないかと思われるのが Arther I Gates の理論である。筑波大学附属図書館の IEL 文庫には、R・I ゲーツの”The Improvement of Reading”（1947 年）が所蔵されている。また、また、R・I ゲーツが編纂した入門期国語教科書”This is Fun”（1945 年）も所蔵されている。仮説の域を出ないが、こうしたアメリカの当時としては最先端の読みの理論、さらには実務で得た実績を背景として、ヘファナン、ヤイディ、ストリックランドは自信を持って、日本で入門期国語教科書の施策を展開していったものと思われる。

（12）語句・語彙研究からの示唆

日本の入門期国語教科書の第１ページになぜこんなに多くの文字があるかというのが、アメリカ側の最大の疑念であったようで、この点からの指摘は多く見られる。Language Simplification　国語の簡素化の視点から、ハルパン、ペルゼルを中心に多くの調査・実験等が報告されている。その結果、「入門期の読み」としては、「1～2 語の繰り返し」を基本とし、内容的には心理学的（児童の身近な経験）、言葉は言語学的（言語の発達）に改善すること（CIE 文書、No.5455）が示唆された。

（13）検定教科書への影響

これら３冊の入門期国語教科書の後世に与えた影響は計り知れない。この時期の検定の入門期国語教科書は、いずれも「金太郎飴」的現象をもたらしたからである。登場人物の男女児童二人（ひろし・はるこなど兄妹が多い）、短句、その繰り返し、家庭・学校における一日のできごと、挿絵の類似等、どの教科書か見まごうばかりである。次の教科書もその 1 例である。ただ、この教科書の場合、女子が先に出ていて、他の教科書（多くは男子が先）よりも斬新である。

写真５　『太郎花子国語の本』

こうして編集・発行された『まことさんはなこさん』『いなかのいちにち』・『いさむさんのうち』、これらの入門期国語教科書は、これに続く検定教科書の１年生用国語教科書のモデルとして大きな影響を与えていくことになったのである。その意味でも、これら３冊の入門期国語教科書は、国語教科書史上、画期的な国語教科書であったと言えよう。

（14）まとめ

うして、わが国で進められてきた伝統的な文字教育観（「易から難へ」という論理性）だけでなく、子どもの学びという心理的な側面から文字学習を提案するという全く新しい発想がもたらされた。つまり、小学校一年生と思われる子どもの日常生活（家庭生活・

学校生活）が経験的に、行動的に語られ、その経験的になじみのある活動を通して言葉学習（文字学習）を進めるというものである。従来の、学習は平易なものから次第に難解なものへ進めるという学習観ももちろん説得力のある考え方であったが、この学習者の経験優先、環境重視、心理的特性に基づいた学習観は新たに説得力を持つものであったであろう。その意味で、この受け容れは、言わば文字学習における革命であった。それまでのカタカナ先習からひらがな先習に移行することも、この時から始まった。その意味でも、この時の GHQ/CIE と文部省とのやり取りは、もっと注目されなくてはならない歴史的一コマである。文字学習、ひいては国語教育のあり方を考究する点からも貴重なやり取りであった。歴史的意義とともに、今日的意義をも合わせ持つ画期的なできごとであったのである。

この結果、生み出されたのが、『まことさんはなこさん』、『いなかのいちにち』、『いさむさんのうち』であった。そして、この後の入門期国語教科書は、これにならって、「たろう・はなこ」、「ひろし・はるこ」、「よしお・はるこ」などの兄妹を登場させ、家庭・学校における一日のできごとを内容とし、言葉を繰り返し用い、音読・動作化を通して文字を習得させるという編纂方法を踏襲することになった。歴史的に、決定的な影響を与えることになったのである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　件）

〔学会発表〕（計　　件）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田　裕久（YOSHIDA Hirohisa）
安田女子大学・教育学部・教授
研究者番号：８０１０８３７３

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：